

あなたは PAIZA 大学の講義を受講した学生の評価をしています。
学生の成績はテストの点数から 欠席回数 × 5 点 を引いた点数とすることにしました。
成績がマイナスとなった場合は 0 とします。

学生のテストと欠席回数のデータが学籍番号順に与えられたとき、成績が合格点以上になっている学生の学籍番号を順に出力するプログラムを作成してください。
学籍番号は 1 から順に与えられます。

例えば、入力例 1 の場合では以下のようになります。

学籍番号	テストの点数	欠席回数	成績		合格点	合格者
1	80	11	25	≥	25	☑
2	20	1	15	<	25	☐
3	50	2	40	≥	25	☑
4	70	0	70	≥	25	☑
5	25	1	20	<	25	☐

学籍番号 1 ではテストの点数が 80 点で欠席回数が 11 回なので 成績は 25 点となり合格点以上となっています。
同様にして、成績を計算すると合格点を超過している学生の学籍番号は 1, 3, 4 となります。

🚩 評価ポイント

10回のテストケースで、正答率、実行速度、メモリ消費量をはかり得点が決まります。
より早い回答時間で提出したほうが得点が高くなります。
1. 複数のテストケースで正しい出力がされるか評価（+50点）
2. 解答までの速さ評価（+50点）

🟡 入力される値

入力は以下のフォーマットで与えられます。

```
N M
a_1 b_1
a_2 b_2
...
a_N b_N
```

- 1 行目に学生の人数を表す整数 N と合格点を表す整数 M が半角スペース区切りで与えられます。
- 続く N 行のうち i 行目 ($1 \leq i \leq N$) には学籍番号 i の学生のテストの点数を表す整数 a_i 、欠席回数を表す整数 b_i が半角スペース区切りで与えられます。
- 入力は合計で $N + 1$ 行であり、入力値最終行の末尾に改行が 1 つ入ります。

それぞれの値は文字列で標準入力から渡されます。[標準入力からの値取得方法はこちらをご確認ください](#) 📖

📄 期待する出力

成績が合格点 M 以上になっている学生の学籍番号を学籍番号順に出力してください。
成績は $a_i - 5 * b_i$ と 0 の最大値で与えられます。

出力の最後に改行を入れ、余計な文字、空行を含んではいけません。

☑ 条件

すべてのテストケースにおいて、以下の条件をみたします。

- $1 \leq N \leq 100$
- $0 \leq M \leq 100$
- 各 i ($1 \leq i \leq N$) について
 - $0 \leq a_i \leq 100$
 - $0 \leq b_i \leq 15$

入力例1

```
5 25
80 11
20 1
50 2
70 0
25 1
```

出力例1

```
1
3
4
```

入力例2

```
5 0
80 3
70 4
30 7
60 1
15 7
```

出力例2

```
1
2
3
4
5
```

入力例3

```
10 60
85 3
85 7
65 1
85 5
90 0
35 14
10 1
75 1
25 3
70 5
```

出力例3

```
1
3
4
5
8
```